

新基地に県民は何度も反対

訪米のデニー知事が会見



記者会見するデニー知事=9日、ワシントン(島田峰隆撮影)

【ワシントン=島田峰隆】訪米中の沖縄県の玉城デニー知事は9日、ワシントン市内で建設には県民が何度も

選挙で反対を表明していると指摘。日米両政府に対し「辺野古が唯一の解決策」への考え方固執しなくよう求めました。

デニー氏は同新基地建設には「政治信念として強く反対している」として、知事としても反対の意思を表明していると述べました。

理由として△県知事選挙や県民投票で辺野古埋め立て反対という

記者会見を開きました。

た。デニー氏は、名護市辺野古の米軍新基地建設には県民が何度も

民意が明確になってい

る△辺野古・大浦湾は生物多様性の極めて高い海域である△軟弱地盤が存在し、埋め立て工事の実現可能性技術的にも法的にも多くの疑問が出ていたとの3点を挙げました。

また人体への有害性が指摘される有機フッ素化合物(PFAS)が基地周辺などで検出されている問題に関する

水、浄化されて供給される飲料水は米軍基地や基地の外に住む米軍の家族にも供給されていると指摘。「水質の浄化や回復は米国市民である米軍人・軍属と家族の健康を守るためにもある」ということを認識していただきた

い」と語りました。トニー氏は、沖縄県は日本で最も台湾に近く懸念していると強調。「台湾有事は決して起じことはならない」として、沖縄を二度と戦場

にしてはならない。日本は防衛力や抑止力の強化以上に平和的な外交や対話による緊張の緩和、信頼醸成の取り組みを進め、有事を起さない取り組みを強化していくべきだと語りました。

「軍拡でなく平和的解決を」 デニー知事シンポで訴え

が集中し、県民は基地があるゆえの事故や事件を経験してきたと指摘。辺野古の米軍新基地建設に県民は明確に反対していると述べました。

台湾有事が懸念される中、日本政府が反撃

【ワシントン＝石黒

みよほ】訪米中の沖縄県の玉城デニー知事は9日、首都ワシントンにあるジョージ・ワシントン大学で開催された沖縄シンポジウムで講演しました。沖縄の

歴史や現状を絆り、会場には学生や政府・議員関係者など約80人が

下での平和的な解決を訴えました。

シンポジウムは、同大学と米外交政策シンクタンクのクインシー研究所が共催。オンライン

国士面積の0・6%にすぎない沖縄は全国の米軍専用施設面積の70



（石黒みよほ撮影）

イニでも配信され、会場には学生や政府・議員関係者など約80人が参加しました。

デニー氏は最後に

「沖縄を訪れ、基地の現状をその目で見ても

らいいたい。問題解決を

求め続けてきたその場

のリアリティーを肌で感じてほしい」と参加者に呼びかけました。

デニー氏は、日本の

平和的な外交に取り組

むよう訴えました。

デニー氏は、日本の

「沖縄を訪れ、基地の

現状をその目で見ても

らいいたい。問題解決を

求め続けてきたその場

のリアリティーを肌で

感じてほしい」と参加

者に呼びかけました。

デニー氏は、日本の

「沖縄を訪れ、基地の

現状をその目で見ても

らいいたい。問題解決を

求め続けてきたその場

のリアリティーを肌で

感じてほしい」と参加